

胎盤の機能異常に着目した環境有害物質による 胎子の発育障害メカニズムの解明

(研究期間：平成 1 2 年 ~ 1 5 年)

任期付研究員：石村 隆太 (独立行政法人国立環境研究所)

総 評 (研究を終了すべきである：優れた研究ではない)

本研究は、胎盤機能異常に着目した環境有害物質による胎子発育障害メカニズムについて、酸化ストレス作用とステロイドホルモン攪乱作用の両方から解明を行うというものである。

酸化ストレス作用を有すると考えられる TCDD を妊娠ラットに曝露させることにより、胎盤で変動する遺伝子を明らかにする目的で二次元電気泳動 (2 D / E) による解析を試みているが、胎盤機能異常との因果関係を明らかにする効果的なアプローチとはいえず、また、血流低下の証明がないなど、メカニズム解明に至る成果は出ておらず、研究目標との距離が大きい。他方、研究所においては、実験補助員の確保、事務的な雑用軽減など、任期付研究員が研究に専念できるよう必要な支援がなされている。

< 総合評価：c >

メカニズムを明らかにするという目標達成に向けては、戦略の抜本的見直しを図るとともに、研究指導体制を強化し、適切な指導者による研究の進め方に対するアドバイスが必要と考えられるが、残された研究期間内で成果を創出することは期待しがたい。

< 今後の進め方：c >

評価結果

総合	今後の進め方	1.進捗状況		2.目標設定		3.研究成果			4.任期制	
		1.達成度	2.進捗状況	1.設定	2.最終	1.科学価値	2.科学的波及効果	3.情報発信	1.活用効果	2.機関支援
c	c	c	c	c-2	c	c	c	b	b	b